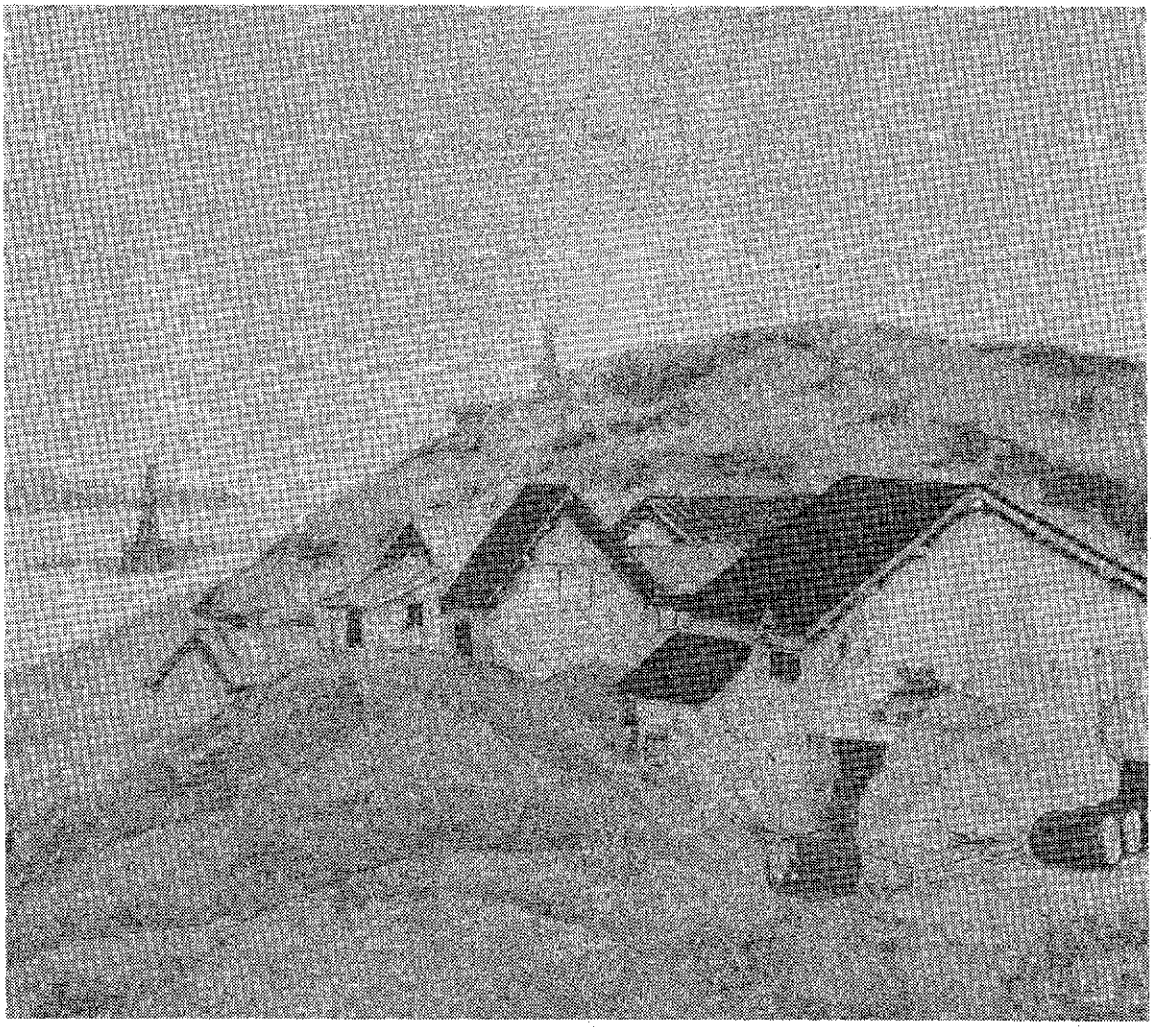


# 新潟県 公民館月報

昭和58年11月号

発行所 新潟県公民館連合会  
【新潟市川端町2-9・県林業会館内】  
【電話・新潟 (0252) 24-6073】【振替新潟0-4049】

発行人 会長 石井 耕一  
編集人 事務局長 本田 清  
【定価1部 100円 年共・年額 1,200円】



## 日和山

新潟市東堀13番町の浜手に小高い丘があり、これを日和山（ひよりやま）という。享保のころまで、信濃川はこの丘の下の本町14番町を左岸として流れており、この山で港に向

かってくる船を監視し報告させ、その船荷の間屋に通報し、迎えの小舟を出して水先案内したものである。日和山の呼称は日和をみていたことにはじまる。山の上はさして広くなく、三層の船見櫓と方角石があり、伊藤仁太郎が世襲でこの仕事にあっていた。

享保16年、阿賀野川が松ヶ崎へ直流したところから、川口に砂がつき港口が東方に移動するにおよび、水先の見張りは川口に移った。

慶応2年伊藤家の邸内に奉祀してきた住吉神社は、日和山の上へ移し、この日和山を観光展望地とした。

近年の海岸決壊、付近の施設は海中に没し、現在はテトラポッドの海岸と展望台だけで、昔の面影はない。

絵・池田 清（新潟市中央公民館、群青会会員）

文・「新潟県大百科事典」による。

## 公民館総合補償制度

公民館の実態に応じ、加入の種類は自由です。中途加入受付中！

詳細は4月号を参照してください

# 第6回全国公民館研究集会

## 盛岡に1600名が集う

さる十月二十六日～七日の両日、第六回全国公民館研究集会が盛岡市で開かれた。全国からの参加者は一、六〇〇名。本県からの参加者は石井会長以下、わずか四名にとどまったが、柏崎市中央公民館の徳間助夫事務長は「広報活動の諸問題と今後のあり方」についての分科会発表者として活躍した。この大会の成果は、十二月二日東京で開かれる全国公民館振興大会に反映される。



(開会式にのぞむ1,600名の人びと)

記念講演

# 「東北文化の心」に感銘



いつ方式。

分科会は管理経営部会で四分科会、事業活動部会で十六分科会とさめられた。それぞれブロッグ選出発表者による基調発表、それに対する質疑、参加者相互による討議、助言者提言とすすみ、午後五時同会場のまどめで第一日を終了した。なお第十五分科会(広報活動の諸問題と今後のあり方)で、本県柏崎市の徳間事務長は、「広報活動推進上の課題と今後の具体的な実践方策」と題し、柏崎市

の広報活動について発表(公民館番頭日記参照)好評だった。第二日の分科会集會は七レモ二で田村全連会長のあいさつのおり、文相・地元知事・市長(いづれも代理)の祝辞、来賓紹介等とすすみ、十時十五分から「東北文化の心」と題しての東北大学

教授高橋富雄氏の記念講演。内容は「東北を代表する人物、高橋賢治・石川啄木、榎方志功、原敬、上杉鷹山、藤原氏三代等の業績を分析し、その精神は、古代東北を象

徴する縄文文化に類するもので、天皇の文化約一千八百程度の歴史だけでは説明されない。えぞ・縄文文化七千年のナツを追究して、はじめて理解されるものだ。格別、戊辰戦争で薩長を放逐した会津藩の武士道の精神は、東北文化の心である。西郷四郎(義父)一族が、このころに東北にたどり着いた。このころに東北文化の心は、たゞえ女子供である。このころに東北文化の心は、たゞえ女子供である。このころに東北文化の心は、たゞえ女子供である。

道(の精神を象徴し、わずか十三か所の子女まき十数人の子女が自力で育てたという歴史をみても評価できる。えぞ・みちのくは一体であり、

の心を表現している。そのような文化につながる。一とするも、多様な感銘を与えた。展覧後のアトラクションでは「盛岡さんさ踊り」コーラスが好評である。午後一時から三時間にわたり生を公民館に出席をせよというところを行政的に措置しているところもあり、実態がそこまできていものならば社教法改正の必要があると思ふ。」

山吉氏「社会教育法第五案と第二十三の規定を見ておられると、本来公民館のやるべきことを教育委員会がやっていると問題がある。公民館は社会教育施設であることを深く認識し、それを管理、経営していく人物を確立していくというはつきりとした施設観が必要。これがはつきりしていれば、コミュニティ施設との関係もはつきりしてくる。

吉田氏「当市では、文部省補助公民館は二館のみで、他は水産庁や農林省などの施設補助で建てられている。これは補助金に問題があるところである。

佐伯氏「公民館では、コーラス・絵・焼きもの等の趣味活動が盛んだが、公民館の端緒の目的は住民の自治能力の向上という課題であり、この観点から見ると現状の公民館は不満足である。民間の教育事業には、自治や生活のことも考えていくことは必要だ。

そこで、学校教育の原則を社教部門でも考慮する必要があり、職員の問題もそのひとつである。」(写真右は記念講演)

講師 高橋富雄氏

全国公研集会・速報から

第1分科会 都市における公民館の管理経営の課題と展望

1. 討議された主な事項

- (1) 都市における公民館の「都市」の概念 (基調発表の北海道深川市と神奈川県平塚市の条件の違いをめぐって)
- (2) 対象区域内の住民の動態、意識、他の施設との関係と公民館
- (3) 民間企業 (教育産業) 行政系列の業務との関連
- (4) 公民館の自主的事業と住民自らの活動とのかかわり、バランス等
- (5) その他 (施設、設備、職員配置、経費 etc.)

2. 討議の内容 (各人の現状発表をふまえて)

- (1) 大都市及びその周辺都市 (平塚市のような) と、いわゆる過疎化・ダウンタウン減少しつつある都市周辺の街 (市) — 深川市 — のようなところの実態と、その公民館活動、管理経営のちがひ
- (2) 職員の活動の心得 (動き方、悩み)
- (3) 教育産業をどのように捉え、公民館事業をどうくみたてるか。
- (4) 行政 (市部局、教育委員会事務局を含む) 事務の限界と責任 (行政主導の限度)
- (5) 複合施設・機能化しつつある (例ホール併設等) 大規模館の経営と限界そのあるべき姿 — ホールは独立採算を強いられるなど —
- (6) 業務委託 — 公立民営論への発展への対応 — 賛否 — 行政改革の余波 —
- (7) 職員の業務体制 (新しい型の公務員として住民サービスと労働条件) — 休日、夜間等の活動、フレックスタイム、協力組織、住民の協力 —
- (8) その他 (生涯教育行政、教育活動 (学校教育を含み) の体系システムの両構築)

3. 今後の課題

『あと20年足らずで21世紀を迎えようとする今日、討議課題を左右する住民の意識、行動も変化し、いわゆる都市形態の変化、専門施設、コミュニティーセンターその他多様な施設が生まれるであろう。そのような今日こそ、将来のため』

よい事業こそ  
最良のPR

酒がひとしおおいしシーズの広報活動が広報活動広報紙となった。口では忙しい忙しい、忙しいながらも、ナンダナンダと喋っては酒を飲んでは、基調発表を命ぜられて、第6回全国公民館研究会が目前に迫り、アタフタとしている昨今である。

10月26・27日、盛岡市で開かれる研究会で私が発表を命ぜられていた分科会のテーマは「広報活動の諸問題と今後のあり方」であり、討議内容として「広報活動を推進するための課題」と「これからの具体的実践方策について」があげられている。

公民館番頭日記

「公民館はPR本屋で下手クソだ。」と言われて続けて久しい。そしてその公民館は「いくら言われても手算がないことには。」という声が多かった。公民館における広報活動を、従来の館報による活動のみでなく、もっと中広く総合的に取り組ませよ、の事業をすすめてこそ大切なのではないだろうか。

おわり、かつての全公連顧問・政藤上先生の言葉を紹介します。

PRとは、よきことだけを90%で、これについて語ることは10%でよいのだ。ところが世の多くの人びとは、ラッパを吹くことがPRだと勘違いをしている。

(柏崎市中央公民館 事業課課長・徳岡助栄)



ぬけるような青年の心が日曜日であった。私は、若父母と一緒に杉並町の風城、春日山城跡を訪れ春日山神社に参拝した。

「若者のあたたかい心」

田中 恵

私は、二人の荷物を持ち帰った。度々四人連れの中学生に出会った。二人は、もうすぐそこで登り始めた。海軍から吹き上げてくる心地のよい風、箱庭のような緑の空を見おろして、心で感じた後の静かな向きの手を振り下ろしていった。

しほらしくと山頂の方から下って来る二人の青年に出会った。青年たちは、笑顔で私たちに「おじいさん、おはあさん、もう少しですよ。頑張ると、頑張ると、やさしく励ましの声をかけて下っていきなさい。」と、山頂まで登って来た二人の青年に出会った。母は「このように自信がなくて、おじいさん、おはあさんが、俺の手を引いてやるからと、父の手に頼まされ、どうして登る気になったよ。」

あまりの好天、気が誘われてか、もう言葉もささるるが、あまの山頂から下りてくる心地のよい風、箱庭のような緑の空を見おろして、心で感じた後の静かな向きの手を振り下ろしていった。

(下野教育事務所 社会教育課長)

に、足もと (それぞれの地域) の実態と将来の方向性を公民館自らが (中心となって) 分析し、生涯教育・学習の中心機関としてのあり行を確立する努力をすべきである。そのためには、県 (市) 公連、全公連が中心となって、研究討議をする一方、各公民館の若手職員の充実をしなければならない。

新しいもの必ずしも、住民の永い目でみた場合、生涯教育の中心たりえず、公民館の自信 (過信でなく) みちた地道な研究と実践こそその中心である。』

# 果す公民館像を求めて (上)

性を進めながらも、他の施設との連携をとっていくべきではないか。

## 【会場のふんいき】

全体を通じて、時間不足ではあったが、活発に意見交換がなされた。

## 第5分科会「放送教育と公民館」

### 討議の柱

#### ①公民館における放送利用の実態

一地域(住民)のニーズをどう受けとめて活用しているか。

#### ②放送利用上の問題点。

### 【話し合われたこと】

①、②について参加者より各市の状況について報告がなされた。現在、放送利用を実施している市、していない市まちまちである。利用しているところも、学級講座の中で番組を見て話し合いを実施しているところ、NHKのシルクロードなどを見、師のお話を聞くなどある。放送利用の問題、①中央で作られた番組と地域の実情があわない。②あらかじめ番組の中身がわからず、プログラムが組みにくい。③地域ニーズの調査が不十分(時間的、人的)。④機械の不足。⑤番組の師と、座の師の間にどうしてもズレがある。⑥行政の理解不足。⑦番組の時間帯と視聴者の時間的ズレ。⑧自主グループ化になるとよく利用される。

### 【討議内容】

①プログラムのない学習があってもよいのではないか、担当者の頭を少しやわらかくする必要がある。②集団視聴でなく個人視聴を原点として、放送利用を考えていく。③現代の進んでいる放送をなぜ社会教育にとり入れていけないのか。

### 【残された課題】

二つの放送利用がある。区別する必要がある。

①放送内容を学習する放送利用(内容のはっきりしているもの)(味の芸、今日の料理)

②放送を見て中身を話し合うのではなく、内容を参考にしながら自分自身を高めていくような放送利用。

### 【会場のふんいき】

少人数であったが各市のとりくみがわかった。

最後の方にもり上りが感じられた。やはり時間がもう少しあったらと思う。

## 第6分科会「公民館と保育」

### 討議の柱

①公民館保育の意義とねらい。②保育の事故。③公民館保育の理念と確立を求めて。④公民館保育の環境整備をどう進めるか。

### 【話し合われたこと】

発表者からの意見に対して質問をし、それに対して答えるという方法で行なった。公民館保育の現状については、まだ各市とも差異があった。その中で、公民館保育運営会議ではどのような方法でやられているか、まず3者会談(保育者、母親、職員)の間ではどういう話し合いがなされているかについても、あずける側とあずかる側で意識のいがある。また、あずける母親の考え方が自主グループではあずけておけばそれでよいという考え方で、学習グループでは保育とは何かを考える母親が多いということであった。

### 【残された課題】

- ・保育中の事故について、行政面(安全な部屋等)からも必要であるが、保育室でただあずけるだけでなく、中に入っているに保育者で行なうことの必要性。
- ・公民館とは何か、社会教育とは何かを認識する場をつくる必要性。
- ・職員の資質の必要性。

### 【会場のふんいき】

全体を通じて時間が足りなかった。

全員が意見を述べた。

## 第7分科会「婦人の学習と公民館」

### 討議の柱

#### ①婦人の学習実態

婦人の自立にともない変化する。

婦人の実態に対応しているか。

自治体のあり方等について。

#### ②婦人学習の視点。

### 【話し合われたこと】

#### ①について

公民館事業、公民館利用者の問題意識・学習目標、それに対応する職員の問題まで広い範囲で意見が出された。

・なぜ料理教室が必要か。

・公民館と教育事業とのかかわりは。

・学習団体に対する公民館の援助はどこまでできるか、等。

### 【残された課題(まとめ)】

婦人は単に学習者として公民館に集まり教えられるのではなく、自主的人間として、婦人が主役の学習を行う。公民館は、連帯の場である。又社会的問題とのかかわりの場である。

### 【会場のふんいき】

利用者、行政、それぞれの立場から熱い意見が多く出され、時間不足であった。

# 第24回関公連研究大会 分科会速報要旨

# 豊かな地域づくりに

## 第1分科会「地域づくりと公民館(都市)について

### 討議の柱

①教育機関としての公民館が地域に果たす役割は何か、②都市公民館の運営(公運審のあり方)、③公民館の独自性とは(教育産業とのかかわりの中で)

### 【話し合われたこと】

①②③相に関連があり、出席者も多く、広く参加者の中から意見や報告が出され、「地域づくり」の視点で討議された。

- ・社会教育委員会議の指導性
- ・社会教育計画もさることながら公運審が機能し、活動することの重要性
- ・民間のカルチャーセンターが繁栄しているが横につながって活動が展開される作用がなく自治能力の向上につながらない。
- ・行政の他部局との連携。

### 【残された課題】

高度経済成長は、住民に本当の幸せをもたらしたのではなく、公害や喧噪であった。本当の幸せは足もとにあるのだと気づき始め社会教育が日の目をみている中で社会教育施設としての公民館が、住民のニーズ(自由意志)を守りつつ地域の課題に対して、他の行政部局との積極的に提携を図る必要がある。

### 【会場のふんいき】

全体を通じて時間が足りなかったが、各市の実情がいろいろ発表された。

## 第2分科会「地域づくりと公民館(町村)」

### 討議の柱

- ・公民館事業における指導者の確保は
- ・中央公民館と類似公民館の関係
- ・青少年の参加をどうはたらきかけるか
- ・地域の要求をどうとらえ、地域づくりの公民館活動をどう進めるか。

### 【話し合われたこと】

- ・学習した人たちにその成果を生かして指導に当たっていたと、ふるさとゆかりの人を指導者とする。
- ・青少年の参加をはかするには、企画・運営から参加させることが大切。また案内ビラよりは口コミが有効ようだ。
- ・地域のとらえ方として、面積、人口などと物理的にとらえるよりは、住民の関心、ニーズ、歴史などを知ることが大切だろう。公民館で歴史を学び郷土史研究、そして町史づくりに発展した例がある。
- ・公民館に集まり、学ぶことによって、人を知り地域の連帯がはかられていくことが理想だ。

### 【残された課題】

中央公民館と地域公民館の関係、また類似公民館のあり方はどうあったらよいか。

### 【会場のふんいき】

討議の柱となった問題を中心に、他の問題、また実情、実践例がたくさん出された。が、充分深まるまでの時間が足りないように思われた。

## 第3分科会「住民主体による公民館」

### 討議の柱

①住民主体について考える。②公運審のあり方。③施設的位置について(中央地区、類似公民館)。④公民館職員のあり方(一住民、生活者として)。⑤住民主体の事業企画の方法について。

### 【話し合われたこと】

- ・主体となる住民が自ら公民館で活動するキッカケは住民と職員が同等の立場で事業の企画運を行う勢が住民のニーズに合ったものであること。
- ・住民が公民館の活動に目を向ける為利用者交流会や利用者懇談会等が組織され、積極的に住民全体の事業化が進んでいること。
- ・公民館を通して住民がどう育って行くかを考えると自分の人生、生活の主人公であり、教育的に能力を伸ばす方法としては「使う」ことが主である。公民館は「自ら能力を使う場」であるべきであろう。

### 【残された課題】

公運審を住民主体の位置に置くにはどうしたらよいか。

### 【会場のふんいき】

女性の参加が多く華やかでふんいきの中でしかもその人達の積極的で具体的な意見、発表が印象的であった。

## 第4分科会「複合化する施設と公民館」

### 討議の柱

- ①複合施設の形態、運、事業、等の問題点について。
- ②社会教育機関としての独自性とは何か。

### 【話し合われたこと】

- ①について
  - ・複合施設でも同じ教育機関が複合されている場合はメリットが多い。
  - ・複合化施設の休館日にかかわる問題点について(施設により相違している場合)。
  - ・住民の側に立った複合施設の利用について。
  - ・複合施設の運は施設の特徴を抜き、機能相利用という相乗果をあげることができる。

### 【残された課題】

公民館は生涯教育を進める拠点・中核であり、施設の独自

# 大会参加の記(2)



近年社会教育施設が市町村ごとに充実されてきた。その施設を使ってのよき市民意識を高めるかが考えべき問題である。公民館は千余年にわたり、地

## よき公民の育成をめざせ

青山 武

第34回新潟県公民館大会六百名の参加者の中から無ら作意に三十名の方を選び感想文を依頼したところ、十七名の方から送届いただいた。先月にひき続き、その一文を紹介する。

城住民の集まり、学び、結ぶの場としての諸条件の整備に努められてきた。この大会において「二十一世紀に望む公民館活動はなにかについて研究討議され、今後の活動に二層意欲をもたれたことと思う。大切なことは、公民館教育は「生き糧」にならざるための教

育「一人類の汗と涙を体験せざる教育」「一人間らしい道徳心を養育する教育」の三つの活動ではないだろうか。よき公民の育成をめざす教育活動は市民を対象として計画的に行なわなければならないし、種物や有識者だけの問題ではない。地域住民の信頼にこたえるべく、地域特色を生かし、生涯教育の意味を人間として考え出すこと



## 基調講演は不消化

武田 昌子

今年は何もいふ未来を語るミニミニの時代とか。過疎の進む山



## 提言を生かして精進したい

星野徳三郎



社会教育、公民館活動であり、後継者教育の基盤とあると思う。(妙高市公民館運営委員)

今年から社会教育指導員として中央公民館に勤めることになった。私は、公民館がこんなにも幅広くしかも充実した活動をしていることに驚いておられます。それだけに、今回のような大会は大変な感動しております。そして、いくつかの提言を参考に、これからの活動に精進したいと希っています。施設設備の高度利用について、学校教育でとりあげている学習形態の工夫で補えないだろうか。大規模な施設を立たいよう望む。

# 集い・学び・結ぶ

## よき公民の育成をめざそう

村で、コミュニケーションの場といえは、若者男女を求めれば語り集いの唯一大切な公民館。公民館の持つ意味は大きい。従来(私もそうであるが)行政からの指令や出方を待つだけの受動的な態度であったが、これからは、わが行政側にも、積極的に、企画・実行し、公民館、行政側にも、働きかけを促すようにしたいものとする。『わが家庭』を築き、その発展に反映・転化させたい。かきまかす……とか

## 多々あるこれからの問題点

桑原里四郎

会場の素晴らしいが、本大会成功を裏付けたと言えよう。開いた。所から判断し、対応策を推進して、午時からパネル討議に移り、それぞれの立場からの意見交換、我々参加者は大いに啓蒙され※

## もっと利用者の声を聞け

稲田 市衛

(長岡市社会教育指導員) 今年の公民館活動として、学習で能力をあげ、グループ学習で定着、融和を図る。そうする中に、直接指導の手を離れ、自主的なサークル活動を生かす、長く続く活動からやがて新しい「こころ」の芽生えがあれば公民館で育つことができる。このサイクルはあたりまえのことながら、工夫してみたいものである。若年層の教育は至難ながら、連帯意識や生涯教育に自覚をもち、意欲的参加と活動ができるよう考えたい。終りに、このような集会がけに、このように公民館大会に精進したいと希っています。



※た。公民館施設とは人も含めての事である。市民参加の公民館活動、施設の有償化・事業の共同化、人生の直面する問題に対応する力を養う事が公民館の事業である。生涯教育の場としての公民館を充実させるなどの討議内容で有意義な一時であった。しかし問題がなければ、若年層の利用者の低さ、ボランティアの活用等があり、活動の容易でない一面を伺われた。ともあれ参加者の熱意溢れる意見発表、態度からも教えられる事の多かった一日であった。

(加茂市公民館運営協議委員)

# 第34回県公民館

## 地元の前向き姿勢に学ぶ

日井 正巳



二年前(じ)ようか、新井市の体育館で、体力つくり推進の集会があった折仲間に入れてもらいました。その時文化ホール工事の加わって、新装なった大ホールの設備に接し、祝意を表しながら加わらせていただきました。

内部施設の整り尽くせの環境や市長さん先導に、市民向けの社会教育に対する前向きな構えを、何よりの土産にも感じて帰場を知っていました。

帰りの船の時間に制約されて、各パネラー発表後の、二十一世紀を望む公民館の目標に向っての討議の煮つめ聞くことができなくて本当に残念でした。

司会者、登壇者が各界の代表的エキスパートでしたので、前々か

## この熱気を 反映したい

横山 千恵

経済企画庁審議官坂本講師先生の基調講演「わが国経済の現状と展望」は細い数字を駆使しての多岐に亘るお話でしたが勉強不足の私は大変難かしいお話でした。午後からは「二十一世紀を望む公

民館活動の目標は何か」というテーマのもとでのパネル討議、それぞれ立場で熱心な発言があり胸にひびくものが多々ありまして、

(真野町公民館)

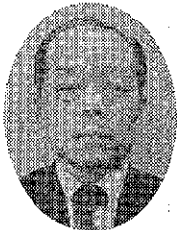


た。中でも板倉町公民館長さんの、これからの活動として複合施設で各種の事業を行なう住民の要求を満たしてゆく、と言った意見は大変興味深かったです。また新井市長さんの生涯教育、学習の推進に就いての発言も示唆に富み、公民館の原形に戻って考え直す必要があると言った言葉を感銘深くお聞きしました。公民館活動は市の広い地味なものと思えます。参加させて頂いた大衆の熱気を少しでもこれからの活動に反映できるならと思います。魚沼人の目には珍しい爽やかなシルスベリが映り込んで素晴らしい文化ホールのある新井は大変良い所でした。

(湯沢公民館運営委員会)

## 表彰を受け 意欲新た

秋山 周治



県公民館大会に参加させて頂き、その際公民館関係者の表彰が行われ、十名の諸先輩とともに、はからずも私もその栄えある表彰状の一人として晴れの席上表彰状をもちました。このことは無上の光栄であり私の人生においても終生忘れ得ぬ感激で

ありました。村の公民館運営委員(須坂村公民館運営委員)として各方面の方々の御指導と御礼を申し上げます。公民館活動の基本的な要素として地域の充実、有能なる人材の確保と配置、社会教育関係予算の獲得が重要でありその実現は地域においてはなかなか困難であります。生涯教育の推進のため、今後ますます努力を重ねる必要を痛感いたしました。パネル討議では後進者の先生方の内容ある御発言と大変感銘を深くいたしました次第です。これから公民館活動を一層推進するた

## 活動のエネルギー源にしたい

横山 フジ



会長の御あいさつの中に社会教育に対するこれからの方向付けとして、先取りの気概を持ってお互いに力を出し合い二十一世紀に向けて前進してまいりますように

と、力強く御あいさつを頂きました。また地元市長さんは、地域の発展は社会情勢の変化をまきまき受け、力強い人間味豊かな人作りこそ一番大きな課題であると、歓迎のあいさつをされた。また基調講演、六名のパネルマンによる発言と討議、本当に何一つ取り上げましても総てが私の血となり肉となした素晴らしい大会でございました。自分が日頃追い求めている問題に答を出して頂いたような思いで胸のわたがかりも消えぬ明るい光が差し込んで来るような気が致しました。今日の大会が私にとりましては、明日への地域住民の目標の幸せのためにエネルギー源として頑張ろうとフライトを燃や

## 色紙(表紙絵)募集

公民館の絵画教室での傑作、利用グループの中で絵をよくする人の作品など、なるべく多量に集めて貰うことを希望しています。

絵の内容は「名画、旧跡、文化財」などのほか、表紙になさっても結構です。説明又は四百字程度でお願ひします。

## プロフィール

松代町公民館主事

市川 英世氏(29才)

市川君と呼ぶと「なんだい」という返事が返ってくる。謙遜にも尊敬があると言言ないところには彼の持長がある。例え相手が誰であろうと意に介さない。それがかえって親近感を与えるのだから人徳と言つべきだろう。

松代町役場に就職したが昭和四十七年、総務課に勤務した後、五十四年から公民館勤務となった。

サクバラなどだが、公民館を訪れる人達の信頼を得、彼の人気は抜群である。

少年教室などでも、集まってくる子どもたちを、頭ごなしに怒鳴りつけても、子どもたちから慕われるところはない。他の者が真似の出来ないものを備えている。

彼の公民館で分担している業務は、家庭教育、青年教育、婦人教育、芸術、文化など、少数の職員構成ながらも、他の分野についても無難とはいかない。従って一応公民館の全事業に参画することになるので、土曜も日曜もない勤務の連続だが、酒脱な人柄でイヤな顔も見せずに頑張っている。

人柄は酒脱だが、酒を抜きにしたら市川君は考えられない。痛飲して徹夜も辞さない。酒豪であり、飲む程にプロ並の美声が出て、誰とでも盃を交え、酒の味を一段と染しものにしてくれる。

とにかく、仕事の面でも社交の面でも、彼のいるところ常に和気がある。周囲を明るく照らし出してくるから不思議だ。家庭にあつては、学校教職員の奥さんと二人の父親であり、お母さんと同居しての五人家族である。好漢大いに飛躍されることを望んでほしい。

(松代町公民館長 高橋 秀夫)



# あの頃のこと

## 日記を読み返す

松木 十三雄

(3)

### 続 オンチのうた

「幸福の黄色いハンカチ」とい  
う映画。桃井おかり扮する中森ハ  
ンパが、「仮免まで行った」と  
大口を叩いたにかかわらず、プ  
ーミを賭すことさえ知らず、その  
運転する車が道を外れて畑へ滑り  
落ち、軽量の山へ突っ込んでエン  
ストで漸く止まるというシーンが  
あった。車の持主である、武田鉄  
矢扮する「ひいカッコー」の若  
者の慌てぶる演技と共に、場内に  
ドット笑いが起った。私も笑っ  
た。場面は移ったが、私の笑いは  
続いた。昔の「ある場面」を思い  
出してはたからであった。

昭和三十一年四月、新築田中  
の「県社会体育指導員講習会」は  
サイクル・ハイキングがメイン・  
プログラムだった。郡市から集ま  
った「社会体育指導員」はすべて  
蠅頭としていた、という訳ではな  
かった。ロクに自動車に乗れない  
のもいたのだ。折から満開の加治  
川の桜(今はもうない)の下を、  
列を組んで進んでいる中、ハンパ  
ル操作を誤って土手から滑り落ち

た。技術の未熟さを懸命に努める  
であつたといえよう。  
だが、誰でもが一所懸命であつ  
た。技術の未熟さを懸命に努める

姿でカバーしようとしたものであ  
つた。そこには表現すべき目標が確  
立されていた、と言つたら、現在  
の公民館活動を批判する言葉にな  
るだろうか。ワラニオの男、今は  
社会教育界のオオモノである。  
昭和二十七年、初めて社体に関  
わつて以来歌には苦しみ続けられ  
てきた。ワラニオで書いた著  
「おしゃべり」は「おしゃべり」  
には唱歌の時間があった。「音ク  
リエーション」という名の演芸  
批評となつた。翌年だったと思  
う。

前回、戦中、戦後をマシマシに生  
きたオンチの哀しさを書いた。指  
導者ワラの「社会体育指導員」だ  
つて似たようなものだった。技術  
能力があつてその肩書きを与えら  
れるということもなく、公民館職  
員の故に否応なく参加させられる  
という者も少なかつた。

しかし、薬場に拘きつつかない  
自転車止められぬは里だつて、  
郡市へ帰れば、明日でも「市民  
サイクル・ハイキング」の企画、  
立案、運営、実施の責任者になる  
管であつた。「何でも屋」として  
の公民館主事の体面はほとんどな  
であつたといえよう。

だが、誰でもが一所懸命であつ  
た。技術の未熟さを懸命に努める

石井耕一著

## おしゃべりはダイヤモンド

市長という激職をこなし、かつ  
気鋭のニッセイストとして知られ  
る、わが県公民館連合会会長の石  
井さんが「おしゃべりはダイヤモ  
ンド」というしゃれた題名の本を  
出版された。

内容は、少年時代から  
青年時代のこと、兵役時  
代のこと、行政マンとし  
ての日常活動のなかで考  
えたことなど多様だが、  
一貫して流れている豊か  
な人間性と深い洞察力  
が、てらいのないわかり  
やすい文章に支えられ読

者の教育はなかつた。音譜も読め  
ず、楽譜線ののびのびも当然であ  
つた。それがキャン・ソングの  
指導をしなければならなかつた。  
教える方だつて楽譜を使つたこと  
はない。歌詞の紙をあつければ、吉  
水トシ子さんか、藤原正吉さんが  
一小節ずつ歌うのをきいて「詩  
かな湖畔の森のかげから」「下  
ンテンチンテンカン」と何回も繰  
り返し、耳で覚えるのが幸だつた。  
た。語呂が終ると必ず伝達する必  
要があつた。そして自分が  
忘れてしまふ。だから地元で若者  
を集めてする講習会は県の指導会  
の直後に開催するのが常だつた。

当時は、青年、婦人関係で  
泊留が盛んで、夜になると「ワ  
ラニオ」で書いた著  
「おしゃべり」は「おしゃべり」  
には唱歌の時間があった。「音ク  
リエーション」という名の演芸  
批評となつた。翌年だったと思  
う。

「おしゃべり」は「おしゃべり」  
には唱歌の時間があった。「音ク  
リエーション」という名の演芸  
批評となつた。翌年だったと思  
う。

「おしゃべり」は「おしゃべり」  
には唱歌の時間があった。「音ク  
リエーション」という名の演芸  
批評となつた。翌年だったと思  
う。

が、歌夢での公民館主事研修会  
で「葬礼」にまで発展した。即席  
で祭壇を工夫し、県の主任主事だ  
つた増井健三郎先生を「ホトケ」  
に任じて「本格的」にやつた苦  
である。管である、と書るのは  
私はこのときの研修会に参加して  
おらず、その時の参加者から「公  
民館でや、やるものなのだ」と言  
された話だからである。

「おしゃべり」は「おしゃべり」  
には唱歌の時間があった。「音ク  
リエーション」という名の演芸  
批評となつた。翌年だったと思  
う。

「おしゃべり」は「おしゃべり」  
には唱歌の時間があった。「音ク  
リエーション」という名の演芸  
批評となつた。翌年だったと思  
う。

「おしゃべり」は「おしゃべり」  
には唱歌の時間があった。「音ク  
リエーション」という名の演芸  
批評となつた。翌年だったと思  
う。

公民館で作成した資料や  
文芸作品集または館報など  
を「おしゃべり」に送らな  
か。県内の皆さんへ紹介  
してまいりたいと思いま  
す。

「おしゃべり」は「おしゃべり」  
には唱歌の時間があった。「音ク  
リエーション」という名の演芸  
批評となつた。翌年だったと思  
う。

「おしゃべり」は「おしゃべり」  
には唱歌の時間があった。「音ク  
リエーション」という名の演芸  
批評となつた。翌年だったと思  
う。

「おしゃべり」は「おしゃべり」  
には唱歌の時間があった。「音ク  
リエーション」という名の演芸  
批評となつた。翌年だったと思  
う。

### 資料 歓迎

公民館で作成した資料や  
文芸作品集または館報など  
を「おしゃべり」に送らな  
か。県内の皆さんへ紹介  
してまいりたいと思いま  
す。

### 投稿 歓迎

感想文でも結構、折によ  
れて気軽にペンを走らせて  
ください。採用文には粗品  
を差し上げておきます。

### あとがき

菊花香る秋、公民館では文化  
祭行事で多忙のこと存じま  
す、盛開で行なわれた全国公研  
集会の盛会のうちを終わり、残  
るは十二月、百、朝陽亭定の全  
国公民館振興大会だけとなりま  
した。しかし、ご存知の国会の  
混雑状態によって、解散ぐみ  
の状況から今後の推移次第で  
は、大会日程の変更等も考えら  
れます。日程変更の場合参加者  
の皆さんへは、お知らせするこ  
とになっていきます。  
とにかく先行き、混雑予想  
される世相です。皆様も自棄  
のうえ、(活躍)されませよと志  
じておきます。(木)

(木)